



JAPIC NEWS

<http://www.japic.or.jp>

()

JAPIC

DI

31 JAPIC

11

31 JAPIC

12

118

13

15

13

15

No.154

16

20

21

《巻頭言》



医 師 と 薬

財団法人国際医学情報センター 理事長
新潟大学 名誉教授
朝 倉 均

薬は病気を治すのに内科系医師にとって重要な助人である。元来病気が治るには、その生体が有する再生修復能力に依るところが多いが、薬は炎症を収めたり、機能を回復したりして、生体をより良い状態にしてくれる。抗ガン薬、抗生物質、あるいは抗ウイルス薬などは相手をピンポイントで攻撃してくれるが、それだけでは破壊された組織は修復されず、究極的には生体の組織再生が必要になる。

さて、医師にとって薬の勉強は学生時代の薬理学の授業で始まる。この薬理の勉強には、解剖学、生理学、生化学、病理学などの基礎知識を身につけてから学ぶ。しかし、病気の病態生理を習っていないので、学生は薬理学を十分に理解しないで試験だけはパスしてゆく。その後、あらゆる臨床系の基礎的な部分が系統講義の授業で学ばれ、多くの大学では大学病院や関連病院でクリニカル・クラークシップとして患者さんを診ながら、病気の知識を充実させてゆくのが基本になっている。しかし、どこの大学病院でも、あるいは関連病院でも医師は診療に忙しく、学生の授業に十分な時間が割けないのが現況である。従って、病棟での教育はよく医師国家試験に出てくる診断や病態が中心になり、時代と共に変遷する治療は概念的なものになってしまう。ある治療薬がこの病気のどのような病態に、どのようにして効くのかを教える時間がない、あるいは教えるほどの知識を有している医者はそう多くはいないのである。事実、日本でもアメリカでも代表的な内科学書には病気の診断、病態、症候などは詳しく書かれているが、治療については数行しか書かれていないのが現況である。後は、ワシントン・マニュアルかメルク・マニュアルを参考にするが、薬用量が日本人と異なることが問題になるし、主にかなり重症の場合の治療法が書かれている。

日本における治療に関する教育や研究はどうであろうか。日本の大学では治験を含めて治療の研究をすると、一段評価の低い研究者として扱われてきた。従って、肺癌の薬の副作用が問題になっているが、内科系で腫瘍治療学を本気で研究する人は血液腫瘍学以外の分野ではまれであった。いくら頑張ってもインパクト・ファクターの高い雑誌には掲載されなかったからである。しかし、十年前頃からであろうか、インパクト係数が高いニューイングランド ジャーナル オブ メディシンやランセットに多数例の良くランダムマイズ

された比較研究の論文が採択されるようになり、大学の研究者の中にも治療論文に対しての評価が変わりつつある。このように再生医学や TLO (technology licensing organization) と共に、大学における臨床試験部の立場が強化されつつある。

しかし、一般の医師は何处で薬について学ぶのであろうか。大学では薬理学の理論は教えても、実際の処方学はあまり教えてもらえない。多くの医師は医師の成り立てのとき、先輩医師から習うか、独学で学ぶか、さらには新薬発売記念講演会で勉強するしかない。多くの開業医は医師会のスポンサー付きの講演会か、MRからのパンフレットからの情報で薬について勉強するのが大部分であろう。したがって、スポンサー付きなので薬の有用面は理解されるが、良く効く薬には副作用は付きものであるが、副作用についての情報はただ羅列して記載されている説明書のみである。どんな致命的な副作用か起こりやすいのか、どのような徴候がみられたら副作用を疑うべきかなどの情報が与えられていない。一方、最近保険適用になった薬の説明書には、あらゆる副作用が列挙されて、それを読んだ患者さんは怖くなってその治療を受けるのをためらったが、知り合いの患者がその治療を受けたら良く効いたので、こわごわその治療を受けたら大変よく効いたという印象文を患者の会の雑誌に書いていた。最近の処方用コンピューターには、処方の画面の他に、薬剤の作用機序や副作用についての情報も入っているので、それらの画面を患者さんに見せながら、患者さんの了解のもとに処方できる時代になった。そういう意味で、今回発売された手のひらサイズの電子医薬品情報の「JAPIC ポケット DI」が有用な情報を送って頂ければ大変便利なものになるであろう。さらに、臨床をよく理解している薬理学の先生による処方学の講演会が、もう少しあるべきではないのであろうか。安全で、有用な薬の用法が求められている時代に、医師に対する病態から考えた処方学の情報が少ない気がする。



《最近の話題》

＜提案＞ 医薬品一般名の書き方

－酸が先か、塩基を先にすべきか－

東北大学 名誉教授

応用薬理研究会 名誉会長

小 澤 光

(元 JAPIC 理事)

化合物の一般名について、日頃気になることがある。

日本薬局方名でも新医薬品名でも日本語では、酸が先で、塩基を後につけている。塩酸モルヒネ、硫酸アトロピンとか、塩酸アマンダジン、硫酸ストレプトマイシンのような書式で記されている。これは安息香酸、マレイン酸、フマル酸、トシル酸などの塩類でも同じで、例えばマレイン酸クロルフェニラミンの形である。

これに対して、英名では、Morphine Hydrochloride や Amantadine Hydrochloride のように酸基が後につく方式で、日本薬局方のラテン語も同じ順に記載されている。

日本名は不便で、薬効上は関係ないものが、始めに来ることになる。この結果、JAPIC の『医療薬日本医薬品集』2003 年版の日本名の索引では、塩酸…が 400 品目近く、硫酸…が 70 以上、マレイン酸…なども複数存在している。これは、医薬品集の作成上も厄介であるのみならず、検索者にしても手間がかかることになる。それに医薬品のレッテルもこの形では見分けにくく、薬品棚の配列にも苦勞する。その意味で英名と同じであれば扱い易くなると思う。なぜエフェドリン塩酸、クロルフェニラミンマレイン酸のような書き方でいけないかと思う。

これに対して酸基にウェイトのあるものはどうか。

フェノバルビタールナトリウム（日本名）、Phenobarbital Sodium（英名）とか、ヒアルロン酸ナトリウム（日本名）、Hyaluronate Sodium（USAN）のようになっている。これは英名と同じで都合がよい。要するに、化合物の有効部位が先行し、付随部位が後にくる形にすればよい。もっとも無機塩類やエステル化合物では必ずしもこの原則に沿わないものもあろう。USAN（United States Adopted Names）の英名は、見事にこの点を処理している感じがする。

わが国でも無理に化学会の命名法に捉われる事なく、有効部位先行方式を取れば、万事便利となり、時間の節約にもなると思う。JAPIC の『日本医薬品集』では、大変親切に索

引には同じものを2度出している。例えば、硫酸アトロピンはアトロピン〔硫酸〕でも出ているが、その必要もなくなる。なお、塩基と酸とのつながりは、英名では一字あけであるが、日本名では、ハイフンかドットかスラッシュかパーレンか何か入れた方が間違いがないものと思う。特に、カナ書きばかりで繋がる場合は区別がついて分かりやすくなる。

医薬品集の編集に携わったり、情報の伝達に関心を持つものとして、日頃の感想を述べた。日本薬局方の改定も行われている折りから、関係者の方々のご検討をお願いした次第である。



◆人事異動に伴う連絡先変更届のお願い

人事異動の時節がら、JAPIC 各種サービスご利用担当者の方の異動も多いことと存じます。ご担当の方の異動や退職等がございましたら、事務局業務担当まで FAX（03-5466-1814）でお知らせ下さい。新しくご担当になられた方に各種出版物等をお送りさせていただきますので、お手数ですが宜しくお願い致します。

また、下記につきましてもご変更があった場合は、ご連絡下さいますようお願い申し上げます。

会社名・機関名／部署名／住所／TEL・FAX 番号／E-Mail アドレス

（事務局 TEL.03-5466-1812）

◆各国の副作用関連情報誌コンテンツサービス実施のお知らせ

平成 7 年から図書館では各国で出版されている医薬品副作用関連情報誌の目次部分の Fax 送信速報サービスを行っております。今年度はイギリス、ドイツ、カナダ等 7 カ国 10 誌を対象としております。平成 15 年度は 4 月受け入れ分からサービスを開始いたします。

料金 年間 5 万円 (税別、送信料込み)
期間 2003.4－2004.3

対象資料

(イギリス)

1. **Adverse Drug Reaction Bulletin** (年 6 回)
2. **Drug and Therapeutics Bulletin** (年 12 回)

(オーストラリア)

3. **Australian Adverse Drug Reaction Bulletin** (年 4 回)
4. **Australian Prescriber** (年 4 回)

(スウェーデン)

5. **Bulletin from SADRAC** (年 1～3 回：不定期)

(ドイツ)

6. **Arznei-Telegramm** (年 12 回)
7. **Arzneiverordnung in der Praxis** (年 4 回)

(フランス)

8. **Prescrire International** (年 6 回)

(カナダ)

9. **Canadian Adverse Drug Reaction Newsletter** (年 4 回)

(日 本)

10. **正しい治療と薬の情報 (The Informed Prescriber)** (年 12 回)

登録ご希望の方は郵送又は FAX で下記までお申し込みください。

〒150-0002 渋谷区渋谷 2-12-15 長井記念館 3F

(財) 日本医薬情報センター 事務局業務担当 または 図書館

FAX 03-5466-1814 (事務局) FAX 03-5466-1818 (図書館)

各国の副作用関連情報誌コンテンツサービス

登録申し込み書

平成 15 年 月 日

(所在地) 〒

(会社名)

(所 属)

(担当者氏名)

(TEL)

(FAX)

登録ご希望の方は郵送又は FAX で下記までお申し込みください。

〒150-0002 渋谷区渋谷 2-12-15 長井記念館 3 F

(財) 日本医薬情報センター 事務局 業務担当 または 図書館

FAX 03-5466-1814 (事務局) 03-5466-1818 (図書館)

支払方法：銀行振り込み 又は 郵便振り替え

◆手のひらサイズの電子医薬品情報「JAPIC ポケット DI」

このたび、医薬品の添付文書情報を手軽に検索いただけるよう手のひらサイズ電子医薬品情報「JAPIC ポケット DI」を開発し、平成 15 年 2 月末に試験的に発売いたしました。市販の PDA※を使って利用できますので、場所を取らず持ち運びに便利です。キーワードを入力し、該当した情報から、効能・効果、副作用など知りたい情報をスピーディに表示できます。

平成 15 年 12 月までを試験的な発売期間といたします。

※PDA（Personal Digital Assistant）とは、起動時間が短く、長時間連続使用可能な携帯型情報通信端末です。

(1)情報源

医療用医薬品添付文書（約 12,300 枚）からデータ作成されています。

薬価基準収載品のほか、医療現場で使われている医療用医薬品はほぼ網羅的に収録されています。

(2)収録データ内容

添付文書上のすべての項目と薬価が収録されています。

（グラフ、化学構造式等の図形の入力は省略しています。）

(3)データ更新頻度

データは毎日更新していますので、常に最新のデータにアクセスすることができます。

(4)アクセス方法

NTT ドコモのモバイルマルチメディアサービス M-stage(エムステージ)を利用してアクセスします。ご利用にあたっては、別途、NTT ドコモとの契約のほか、M-stage に接続可能なデータ通信カード、インターネットブラウザを搭載した PDA が必要となります。

詳細につきましては、下記 URL をご参照ください。

http://www.nttdocomo.co.jp/p_s/infogate/

※ 一部、電波等の関係で使用制限される場合があります。

(5)利用料金（平成 15 年 12 月まで）

JAPIC 会員

年 会 費：無料

利 用 料：500 円／月

特定データ利用会員

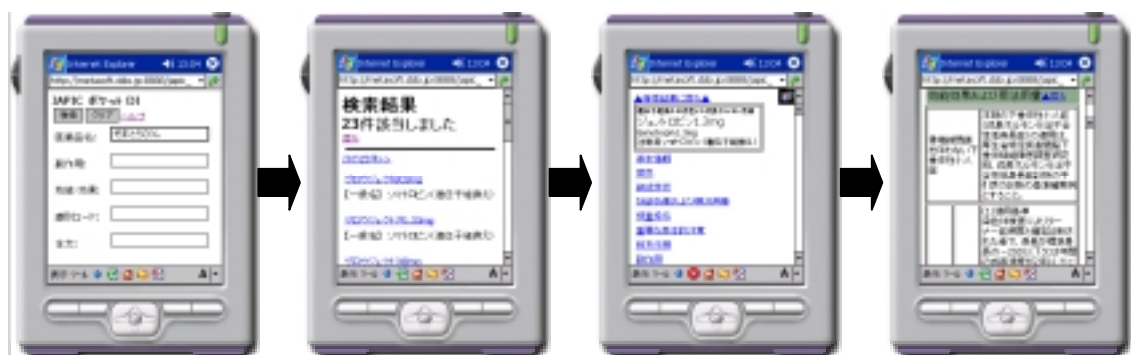
年 会 費：5,000 円

利 用 料：2,000 円／月

※ 上記以外に、M-stage 接続料金（基本額）、通信料金等がかかります。

※ 「特定データ利用会員」とは、これまでの「JAPIC 会員」以外で、「JAPIC ポケット DI」を利用する ①医療機関等、または ②医療機関等に従事する個人の利用者をいいます。

(6) 検索画面イメージ



知りたい情報のキーワードを入力します。キーワードには、医薬品名、効能・効果、副作用などが自由に指定できます。

添付文書情報データベースからヒットした件数が表示されます。

選択した医薬品の添付文書情報、薬価情報からご覧になりたい情報を選択できます。

選択した情報が表示されます。

(7) 導入例

医療機関

院内医薬品集として利用できます。従来のように印刷の必要がなく、最新の添付文書データを見ることができます。

製薬企業 MR、医薬品卸 MS

戦略ツールの一つとして広く利用することができます。ドクターからの問い合わせにも即時対応することができます。

保険薬局

服薬指導を強力にサポートできます。いつでも最新の情報を提供することができます。

お問い合わせ、利用のお申込みは下記まで...

(財)日本医薬情報センター (JAPIC) 事務局
Tel.03-5466-1812 Fax.03-5466-1814

◆「第 31 回 JAPIC 医薬情報講座」を終えて

去る 3 月 6 日(木)～7 日(金)の 2 日間にわたって“薬事法改正と医薬情報”をメインテーマに掲げた「JAPIC 医薬情報講座」を日本薬学会長井記念ホールで開催しました。

従来の 3 日間から 2 日間に短縮しましたが、延べ約 300 名の方が受講されました。

1 日目はサブテーマ“薬事法改正をめぐって”により、昨年の薬事法改正公示を受け、本年 4 月の実施に向けた改正のポイントや取り組みについて、厚生労働省の北條泰輔医療機器審査管理室長、研究開発振興課の別井弘始課長補佐からご講演いただいたのをはじめ、薬事法改正に関わる医療機器、生物由来製品、ウイルス、再生医療産業までと、行政から臨床の現場にわたる幅広い角度から造詣の深い講師の方達に改正薬事法を取り上げていただきました。再生医療については、細胞シートを使った角膜や心膜の再生術が動画画面で示され、臨場感あふれるプレゼンテーションで、大学研究所の研究現場に居合っているようでした。臨床応用の問題や法的課題などにも触れていただき迫力ある内容で、参加者のアンケートでも大好評でした。

2 日目は、製薬企業および医療の現場にさらに接近したサブテーマの“市販後調査と医薬情報”で、保険薬局、病院、薬剤師会、卸、製薬企業など多岐にわたる立場から PMS への対応を講演していただきました。終了後のアンケートでも 1 日目が基礎編、2 日目が実践編でよかったという声に、企画者側としては安堵したところです。

今回の「JAPIC 医薬情報講座」の続編として、7 月 28 日“薬事法改正の実施をめぐって”を主題とした“医師主導の治験のあり方”、“生物由来製品”についての「JAPIC 講演会」を別途企画中です。ご期待下さい。

(事務局 TEL. 03-5466-1812)



◆「第 31 回 JAPIC 医薬情報講座」に参加して

株式会社ベネシス 医薬安全部市販後安全対策室 仲谷 正晃

昨年に引き続き、この講座に参加させていただきました。

昨年までは「DI のための情報基礎講座」という名称であった本講座が今年から名称を変えて「JAPIC 医薬情報講座」となりました。これまで DI 以外の方が参加しようと考えた場合や企業などの部署から代表として受講に派遣する場合、その名称から参加に対して若干躊躇することがあったようにも思いました。今回、実際会場に入ってみて、昨年度に比べて参加者の男女の割合、年齢層にも変化があったような印象を受けました。

講演の内容ですが、今回からは名称変更に伴い、内容について基礎だけでなく、幅広い内容を取り入れたとの事務局のコメントにもあったとおり、本年 7 月の薬事法改正の関連事項と市販後調査に渡る最新のトピックを中心とした内容でした。行政、医薬品卸、医療機関、薬剤師会、医療機器メーカー、製薬メーカーの延べ 10 名の講師による講演がありました、これだけ多分野からの講師の講演を一度に聞ける機会はあまりないと思います。これら多方面の方々のお話を続けて一度に聞くことにより、医薬品、医療機器の適正使用はそれぞれの機関が、それぞれの役割を果たしてうまく機能するのであろうということを改めて認識させられました。

JAPIC に対しては講演会、ユーザー会の機会毎にアンケートを行いユーザーの意見を丁寧に行っているという印象を持っています。アンケートにおける顕在化したニーズの収集、普段の担当者同士のコミュニケーションにおける潜在的なニーズの発掘により、今回のような充実した講演内容になったと思います。

私は(株)ベネシスの市販後調査部門に三菱ウェルファーマ(株)より出向しております。(株)ベネシスは主として血漿分画製剤を取り扱う会社で、三菱ウェルファーマ(株)の 100%出資子会社として 2002 年の 10 月に発足しました。弊社の取り扱い製品は今回の薬事法改正にある生物由来製品と特定生物由来製品であり、中でもほとんどが特定生物由来製品です。現在は生物由来製品の表示の変更、7 月より新設される感染症定期報告への対応に追われています。ご存知のとおり、血漿分画製剤は感染症の問題に関連しており、演者の 1 人が述べられた HIV 感染の社会的問題も経験しております。今回の薬事法改正の柱の一つである生物由来製品に対する規制については、最も真摯に対応しなければいけない企業と考えております。

製薬企業の市販後調査部門は当局への副作用・感染症報告対応、文献の評価、医療機関からの問い合わせの対応、その他の業務で、毎日夜遅くまで日常業務に追われているのが現状のようです。私の場合も同様に、目の前の仕事に追われている毎日です。何のために、誰のために業務をしているのかということについて振り返ることができた 2 日間でした。

◆「第 118 回薬事研究会」報告

2月28日(金)東京・千代田区の「九段会館ホール」におきまして、第118回の薬事研究会を開催致しました。

最初に「適正使用と情報提供」と題しまして、市立泉佐野病院 薬剤部長 西山辰美氏からお話があり、現在の医薬品の適正使用をめぐる問題点を指摘した上で、適正使用のためには医療関係者に必要な情報が適切に提供されることが不可欠であり、そのため医薬品情報、特に安全性情報の内容充実を図り、情報収集・提供の面において医療現場と製薬企業とが密に連携していかなければならないと述べられました。続いて「医師主導型治験と企業対応(審査センター勤務体験をふまえて)」と題して、順天堂大学医学部 教授 伊藤澄信氏から、薬事法改正に基づく医師主導型治験の可能性や問題点及び製薬企業への影響、また医療現場で求められているもの等について、審査センターでの勤務経験をふまえてユーモアを交えた興味深いお話を頂きました。

当日は製薬企業関係の方を中心に330人を超える参加者があり、今回のテーマに対する関心の高さが窺えました。今後も時宜に合ったテーマを取り上げ、薬事研究会を開催していきたいと考えておりますので、宜しくお願い致します。なお、当日の記録を作成し、参加して頂いた会社の薬事担当者あてに1部お送りする予定にしております。

(事務局 TEL. 03-5466-1811)

◆「平成 15 年度事業計画・予算理事会、評議員会」報告概要

去る3月11日(火)に第12回評議員会、14日(金)に第93回理事会が開催されました。それぞれ議題は次の通り(14ページ参照)であり、提案された議題はすべて原案通り承認・議決されました。

主なものとして、理事の選任では、新たに2名の方が理事に選任されました(以下参照)。また、役付理事の選任では、4月1日付で専務理事に松本和男(現 常務理事)が選任されました。

本理事会・評議員会でご審議していただく主要な議案でありました、平成15年度事業計画(案)・収支予算計画(案)においては、理事会・評議員会ともに、活発な議論が展開されました。

また、平成14年度一般事業・収支状況については、順調に推移していることをご報告させて頂きました。

「第 12 回評議員会」 3 月 11 日(火) 14:00～15:25, 当センター3 階会議室

《主な議案項目》

1. 理事の選任 (※ 敬称略)
 (ご 退 任)
 久田 保彦 (前 山之内製薬株式会社製品情報センター所長)
 秋山 孝二 (前 株式会社スズケン代表取締役副社長)

 (ご 新 任)
 池田 道郎 (山之内製薬株式会社製品情報センター所長)
 西浦 忠男 (株式会社スズケン代表取締役副社長)

2. 維持会員・賛助会員の異動承認
3. 平成 14 年度一般事業報告(4～2 月)
4. 平成 14 年度収支予算の補正 (案)
5. 平成 15 年度事業計画 (案)
6. 平成 15 年度収支予算計画 (案)
7. その他

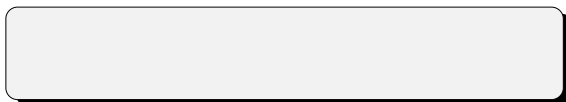
「第 93 回理事会」 3 月 14 日(金) 14:00～15:15, 当センター3 階会議室

《主な議案項目》

1. 役付理事の選任
2. 維持会員・賛助会員の異動承認
3. 平成 14 年度一般事業報告(4～2 月)
4. 平成 14 年度収支予算の補正 (案)
5. 平成 15 年度事業計画 (案)
6. 平成 15 年度収支予算計画 (案)
7. その他

(事務局 TEL. 03-5466-1811)





◆「一般薬日本医薬品集」等編集のための調査について

本年も3月に一般薬製造会社を対象に調査を行いました。ご担当の皆様には年度末でお忙しい中ご協力頂き、厚く御礼申し上げます。今回の調査結果は、本年7月発行予定の「一般薬日本医薬品集 2004-05」（第14版）〔書籍〕編集資料及び「日本医薬品集 DB 2003年7月版」〔CD-ROM〕の一般薬更新データとして利用させていただきます。

なお、ご返送頂く期限は3月28日までとなっておりますが、添付文書作成中等の理由でまだご返送いただいていない場合は、担当までご連絡いただけましたらありがたく思います。また、変更のない場合でも、調査資料等をご返送くださいますようお願い申し上げます。

（添付文書部門 日本医薬品集編集担当 TEL.03-5466-1825）





No.154

◀ 新着資料案内 ー平成 15 年 2 月受け入れ▶

この情報は JAPIC ホームページ<<http://www.japic.or.jp>>でもご覧頂けます。

お問い合わせは図書館までお願いします。複写をご希望の方は所定の申込用紙でお申し込み下さい。

電話番号 03-5466-1827 Fax No.03-5466-1818

ー図 書ー

1. AHFS drug information 2003

McEvoy,Gerald K. editor Am.Soc.of Health-System Pharmacist 2003
3,732p \ 39,133

2. 鎮痛・オピオイド研究最前線

2002 166p

\ 3,000

3. 注射薬調剤監査マニュアル 改訂版

2002

684p \ 9,000

4. Data Book 2003

2003 93p

5. Evidence-based manual of coronary care management エビデンスに基づいた救急管理

Mark Connaughton 2003 201p

\ 3,700

6. Evidence-based medicine: EBM の実践と教育 2nd ed.

Sackett,David L.et.al 2003 309p \ 4,700

7. 外国人患者診療・看護ガイド How to accept foreign patients

2002 167p \ 1,900

8. 外来インスリン導入のすすめ方 導入時の問題点と対策

2002 170p \ 3,000

9. がん用語解説集 増補版

- 2002 669p \ 4,700
- 10. History and review of SMON research**
 SMON Research Committee , SMON Research
 Committee
 1990 301p
- 11. 保険請求のためのワンポイント 2002 年改訂対応 (三訂版)**
 2002 63p \ 1,300
- 12. IARC monographs on the evaluation of carcinogenic risks to humans
 vol.82. Some traditional herbal medicines, some mycotoxins, naphthalene
 and styrene.**
 IARC Working Group WHO-IARC 2002 590p \ 7,400
- 13. 医学研究者名簿 2002-2003**
 2002 831p \ 38,000
- 14. 医療安全推進総合対策－医療事故を未然に防止するために－**
 2002 141p 2,000
- 15. 第 31 回 JAPIC 医薬情報講座テキスト(平成 15 年 3 月 6 日～7 日)**
 2003 2
- 16. JOIS データベース活用ガイド (基礎編) JMEDPlus ファイル 2003**
 2003 127p \ 2,000
JOIS データベース活用ガイド (基礎編) JSTPlus ファイル 2003
 2003 165p \ 2,400
- 17. JOIS コマンドリファレンスガイド 2003**
 2003 187p \ 3,200
- 18. 改訂 看護師国家試験＜出題基準完全対応＞あと 10 点アップ大作戦**
 10 2002 217p
 \ 2,700
- 19. 今日の治療指針 2003 私はこう治療している**
 2003 1605p \ 19,000
- 20. ミクス薬学シリーズ(2)薬物治療学 改訂版**
 2002 872p \ 8,500
- 21. MR 継続教育用テキスト II 倫理**

2003 281p \ 3,000

22. 日英医学便利用語集

2002 765p \ 4,800

23. 日本薬局方 第十四改正 第一追補

2003 308p

24. PDR 57th ed.2003 Physicians' desk reference

Paul Walsh M. Thomson PDR 2003 3,550p \ 11,860

25. 臨床検査・診断ハンドブック 改訂版

2002 206p \ 2,800

26. Rote liste 2003 –Arzneimittelverzeichnis fur Deutschland

Rote Liste Service GmbH Editio Cantor Verlag 2003 1v

\ 11,710

27. 最新治験薬集 トライアルドラッグス 2002

2002 249p \ 25,000

28. 産学連携の新しい流れ 創薬から臨床試験まで

2002 172p \ 3,000

29. 背広を着た縄文人－縄文から現代における環境変化と人類の病気

2003 189p

30. 生物兵器、テロとその対処法

Anthony T.Tu() 2002 246p \ 3,500

31. 製薬企業の実態と中期展望 2003 年版

2003 459p \ 45,000

32. 新・医学ユーモア辞典 改訂第2版

2002 612p \ 3,800

33. USP DI 2003 Vol.I : Drug information for the health care professional

Thomson Micromedex 2003 3,051p \ 47,491

USP DI 2003 Vol.II : Advice for the patient—Drug information in lay language

Thomson Micromedex 2003 1,668p

USP DI 2003 Vol.III : Approved drug products and legal requirements

Thomson Micromedex 2003 Various page

USP	11,000			
	2002	Vol. ()	43	
173	Vol. ()	45	140	
				Web
		3		

34. 薬剤管理指導業務マニュアル 改訂第4版 -医療の質の向上に向けて-

2002 226p

¥3,300

35. 薬剤師の臨床業務における情報活用法

2002 193p ¥2,800

36. 要介護認定調査ハンドブック-改訂版-85項目のポイントと特記事項の記入例-

2002 197p ¥2,300

－厚生労働省・製薬団体等資料－

1. 医療用医薬品再評価結果 平成14年度（その3）について

2003 6p

2. 家庭用品に係る健康被害病院モニター報告（平成13年度）

2003 37p

－その他－

1. 北陸大学 博士学位論文 第16号

2003 6p

2. 星薬科大学紀要 No.44

2002 115p

3. 城西大学薬学部紀要 第23号

2003 135p



年度末のこの3月は内憂外患の月であったように思われます。外においては、今月の中旬以降から日増しにイラク情勢の緊迫度が増してきました。本文が皆様のお手許に届くごろにはイラク戦争？の行方はどうなっているのでしょうか。一方、国内の経済に目を転じますと、全産業ベースでの今年の三月期決算は概ね黒字が予想されているにもかかわらず、イラク攻撃情報のためか日経平均株価が8,000円割れの日が散見されます。再び株価低迷による4月、5月の金融危機説の声も聞こえてくる月でした。

当センターも3月末で平成14年の会計年度が終わりますが、収支決算はほぼ満足できるものになりそうです。これは偏に会員の皆様のご支援、ご協力の賜であることを認識しております。この場を借りて感謝申し上げます。

3月6日、7日の両日、「JAPIC 医薬情報講座」（旧：DIのための情報基礎講座）を開催いたしました。講座名、日数も変え（従来の3日間から2日間）また参加費も下げ、新たな試みで第31回を実施しました。今回は「薬事法改正と医薬情報」のテーマであり、テーマに対しての関心度に加え、両日とも講師の先生にも恵まれ、計300名以上の方々が参加されました。また、当日のアンケートからも好評であったことを知り、喜んでおります。

3月5日にはJAPICの企画運営会議、11日には同評議員会、14日には同理事会が開催されました。いずれも本年度最後の会合でしたので、14年度の事業経過報告、収支決算の中間報告および15年度の事業計画案、予算案が審議されました。いずれも活発な質疑議論の後、全て承認されました。15年度の事業計画全般につきましては次号で理事長が説明する予定になっておりますが、14年度からの継続事業に重点をおき、メリハリをつけた計画になっております。また、15年度の予算の規模は今期より若干の膨らみをもったものになっております。

来年度（15年度）は第一期中期3カ年計画の中間期（2年目）になります。特に、地歩固めをしっかりとっていく方針がでておりますので、今期の実績・成果を踏み台にして新年度からは、役職員一同、心機一転の気持ちで業務に取り組む所存です。会員の皆様には今期同様、来年度もご指導、ご協力をお願い申し上げます。

（K.M）



- ・平成15年3月1日から3月31日の期間に提供しました情報は次の通りです。
- ・出版物がお手許に届いていない場合は、
当センター事務局業務担当（TEL.03-5466-1812）にお問い合わせ下さい。

情 報 提 供 一 覧	発行日等
<出 版 物 等>	
1. 「医薬関連情報」 3月号, 索引	3月28日
2. 「Regulations View」 No.91	3月28日
3. 「JAPIC CONTENTS」 No.1544～1548	毎週月曜日
4. 「国内医薬品添付文書情報」 No.204	3月24日
5. 「日本医薬文献抄録集」 02シリーズ版（11）	3月末予定
6. 「医薬品副作用文献速報」 4月号	3月末予定
7. 「JAPIC NEWS」 No.228	3月28日
<速報サービス>	
1. 「各国副作用関連情報誌のコンテンツ速報FAXサービス」	随 時
2. 「医薬関連情報 速報FAXサービス」 No.378～381	毎 週
3. 「JAPIC-Q（医薬文献・学会情報速報サービス）」	毎 週
4. 「JAPIC Daily Mail（外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス）」 No.445～464	毎 日

デ ー タ ベ ー ス 一 覧 ※ 1 ～ 7 のデータベースのメンテナンス状況はJIPホームページ (http://Infostream.jip.co.jp/) でもご覧いただけます。	更 新 日
<JIP e-InfoStreamから提供>	
1. 「JAPICDOC速報版（日本医薬文献抄録速報版）」	3月13日
2. 「JAPICDOC（日本医薬文献抄録）」	3月13日
3. 「ADVISE（医薬品副作用文献情報）」	3月13日
4. 「MMPLAN（学会開催予定）」	3月 7日
5. 「SOCIE（医薬関連学会演題情報）」	3月13日
6. 「NewPINS（添付文書情報）」（月2回更新）	3月 3日 3月14日
7. 「SHOUNIN（承認品目情報）」	3月13日
<JST JOISから提供>	
「JAPICDOC（日本医薬文献抄録）」	3月中旬

当センターが提供する情報を使用する場合は、著作権の問題がありますので、その都度事前に当センター事務局業務担当（TEL.03-5466-1812）を通じて許諾を得て下さい。

===== 財団法人 日本医薬情報センター
 〈禁無断転載〉 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15
 JAPIC NEWS 1984.4.27 No.1 発行 長井記念館 3 階
 毎月 1 回(最終金曜日)発行 TEL 03(5466)1811 FAX 03(5466)1814